

平常時

家の中の安全対策

家具の固定、避難路をふさがないレイアウト、ガラスの飛散防止を施し家の中で被災しないよう対策を講じましょう。

備蓄品の準備

災害が発生しても、すぐに支援物資が届くとは限りません。家族が7日間は過ごせるだけの物資を備蓄しておきましょう。

避難場所等の確認

自宅から、職場から、学校からの最寄の避難場所・避難所・避難路も含めて平常時から家族で確認しておきましょう。

地域のコミュニケーション

お年寄りや体の不自由な方々に声をかけて一緒に避難するなど、ご近所で助け合いましょう。

地震発生

自分の身を守る

地震の揺れを感じたら、まずは落ち着いて自分の命を守ることを考えましょう。

揺れが収まってから行動する

揺れている最中に火を消そうとすると、火傷をしてしまうかもしれません。

● 火の始末 ● 出口の確保



避難の時

避難は徒歩が原則

家屋の倒壊や落下物などにより、自動車ではスムーズに避難できない可能性があります。

また、多くの人々が自動車で避難してしまうと、渋滞や交通事故のおそれがあります。

地域での協力が大切

お年寄りや体の不自由な方々に声をかけて一緒に避難するなど、ご近所で助け合いましょう。

河川に近づかない

地震の後には、堤防が被害を受けている可能性があり非常に危険です。

堤防破堤で浸水

少しでも早く、高いところに逃げる

既に避難路が浸水している場合は、遠くに逃げるのではなく、高いところに逃げましょう。最寄りの丈夫な建物のできる限り高いところに避難しましょう。

河川から離れる方向に逃げる

地震発生直後、堤防が破堤し町には水が流れ込みます。また蟹江町にやってくる津波は川をさかのぼってやってきます。避難のときは、川と垂直の方向に逃げましょう。



津波による河川の水位上昇

「安全な場所についたら、水が引くまで待機する。」

一度浸水すると、水が引くまでは時間がかかります。安全な場所に避難できたら、家に戻らず、その場で救助を待ちましょう。